

The 4th M-PEC Festival 2010



Program: 第4回 エムペック・フェスティバル プログラム

<このプログラムは近日中に、www.shihoya.com の目次:「M-PEC」に掲載>

WELCOME!!!

日時 Date 11月14日(SUN) 1:30 pm 開場 Open ⇒ 2:00-5:00

会場 Place 妙高市勤研センター Myoko City Kinken Center

入場料 Fee 当日、会場で Please pay in the place.***

小学生:無料¥0 (E/S students)、中高生&会員:¥500 (J/S,-HS students & Members)、一般:¥1,000 (The Others)

主催 Sponsored by Myoko Powerful English Club (エムペック:M-PEC)

事務局:LLシホヤ新井教室・Tel: 0255-72-2025・代表:遠藤由明 / 運営委員会会長:保坂 太
Office:LL Shihoya Arai School Phone: 0255-72-2025 E-mail to shihoya@symphony.plala.or.jp

Weblog:<http://pub.ne.jp/MPEC/> M-PECのご紹介等URL:www.shihoya.com ⇒目次:「M-PEC」
President: Yoshiaki Endo (“Yoshy”) Chairperson:Futoshi Hosaka

後援 Under the auspices by the Board of Education 妙高市教育委員会

進行 Brief Procedure

Part-1 (2:00-2:45) : in the Hall

★「民話英語劇現代版:はね馬」

English Play, “Prancer” - A modern version folktale -

★「詩吟」by 岩下神繁先生・横尾神?先生(神風流・総元代範)

Recitation of Chinese poems by Mr. Shinpan Iwashita & Shiho Yokoo (Masters of Shinpu-school)

★「ごあいさつ」by 遠藤由明

Greeting Speech by Yoshy (Yoshiaki Endo)



日本の文化
にふれま
しょう!
Welcome to
Japanese
Culture!

Part-2 (3:00-5:00) : Party in A-Room on 2nd Fl.

★「顧問と講師代表ごあいさつ」by 西脇守夫様(顧問)、平田真義様(講師)

Greeting Speech by Mr. Morio Nishiwaki: a representative of Advisors & Mr. Shingi Hirata: a teacher of Today

★会員手づくり軽食を楽しみながら… During eating the some dishes made by M-PEC Members…

*「平和を願う戦争資料展」<戦争中の子供の日用品・防空関係資料> by 平田真義先生
Exhibition of Pacific War-Materials for Wishing Peace by Mr. Shingi Hirata

*「帯結び実演」by 深石典子先生(深石礼法きもの学院)

Demonstration of Tying Sash by Ms. Noriko Fukaishi (Fukaishi Decorum Kimono Academy)

*「美術工芸品展示」by 東條麗子先生(実験空間Studio Zero)

Exhibition of Arts and Crafts by Ms. Reiko Tojo (Laboratory Space: Studio Zero)

*「とんぼ玉制作実演」by 長 明子先生 & 遠藤礼子
Demonstration & Teaching Making Glass-beads
by Ms. Akiko Cho & Ms. Reiko Endo

10名先着順、制作実費¥600 The first 10 comers,
¥600 each.

★記念写真、閉会 Taking a Memorial Picture then Farewell

第4回 M-PEC Festival

11月14日(日) 14時~17時 勤労者研修センター
一般:1,000円
会員・中・高生:500円 小学生以下:無料

英語劇「はね馬」
上演+「手作り料理
パーティ」で仲間づ
くりを!



M-PEC (ミョウコウ・パワフル・イングリッシュ・クラブ)
(遠藤 由明) ☎72-2025

岩下神繁先生：「詩吟吟誦」神風流・総元代範

Mr. Iwashita Shinpan: “Shi-Gin: Recitation of Chinese Poems”
Somoto-Daihan (The Highest Rank) of Shinpu-School

1913(大正2年)7月13日生まれ：97歳。＊出雲崎生まれ。＊1942(昭和17年)～新井在住、日本曹達勤務。＊1970(昭和45年)：57歳：同定年退職。故杉山義抽氏と出会い、新井市長寿クラブ連合会を設立。副会長として活躍開始。杉山先生と共に詩吟学習開始。＊1981(昭和56年)～10年間、同会長。＊1991(平成3年)、上越市春日野へ転居。詩吟は小林神豪先生に師事。＊2006(平成18年)、神風流最高位の「総元代範」に就任。岩下神繁と号する。＊春日野寿会(老人クラブ)会長を14年間務め、2007(平成19年)年4月勇退：現在は顧問。



横尾神? 先生：「詩吟吟誦」神風流・総元代範

Mr. Yokoo Shinsho: “Shi-Gin: Recitation of Chinese Poems”
Somoto-Daihan (The Highest Rank) of Shinpu-School

・本名：横尾 奨(すすむ)。1931(昭和6年)2月10日生まれ。79歳。中越、南魚、浦佐町(現、魚沼市)にて生を受け、昭和23年より新井に在住する。新大高田分校卒業後、県下の小、中校と行政に勤務。定年退職後、学校生協、退職公務員、退職教職員等の組織に係わり現在に到る。・詩吟神風流の吟歴は、途中の中断を含めて57年間。現在「神豪会」直系「霜台公詩吟剣舞之会」四代目会長を務める。(三代目前会長は、岩下神繁氏)



平田真義先生：「平和を願う戦争資料展：戦争中の子供の日用品・防空関係資料」

Mr. Hirata Shingi: “Exhibition of Pacific War-Materials for Wishing Peace”... especially, “The Children’s Things for Daily Use in the War & Materials related to the Air Defense”

1952年生まれ。＊上越市板倉区在住。＊浄土真宗本願寺派浄光寺住職。＊高校で30年間教諭として勤務。＊退職後は「戦争資料を通じて命を見つめる活動」を全国各地で展開中。M-PEC会員。



深石典子先生：「帯結び実演」深石礼法きもの学院

Ms. Fukaishi Noriko: “Demonstration of Tying Sash”
President and Instructor of “Fukaishi Decorum & Kimono Academy”
礼法ときものの着装の教室講師。M-PEC会員。



東條麗子先生：「美術工芸品展示」実験空間 Studio Zero

Ms. Tojo Reiko: “Exhibition of Arts & Crafts”
President of “Laboratory Space, Studio Zero” M-PEC協力員。



長 明子先生：「とんぼ玉制作実演」

Ms. Cho Akiko: “Demonstration & Supporting Making Glass-Beads”

＊1933年：旧満州新京(現：長春)生まれ：Born in Shinkyoo, Old Manchuria. ＊1995年：トンボ玉に出会う：Happened to see Glass-Beads for the first time. ＊1996 バーナーワークを松田尚子氏に師事：Began to study Burner-Work under Ms. Matsuda Naoko. ＊1999年：新潟市巻、「ガラスのメルヘン美術館」にて個展：Held an exhibition of her works at “Glass-Fairy-Tale Museum” in Maki, Niigata City. ＊以後：Since then...毎年同館にて個展：Continue holding a one-person exhibition at the same museum. ＊2002年：大阪府弥生文化博物館にて「トンボ玉100人展」に出品：Submitted her works to “Glass-Beads from 100 Artists” at Yayoi-Culture Museum in Osaka-Fu. M-PEC会員。



遠藤礼子：「とんぼ玉制作実演」(長 明子先生に師事)

Ms. Endo Reiko: “Demonstration & Supporting Making Glass-Beads”
A student of Ms. Cho Akiko. M-PEC会員。

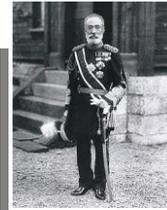


日本語も英語も、中身が大切！その道の達人の世界をご堪能下さい。
We need something to talk about in a good communication.
I'm sure you could be satisfied with today's experts' world.



詩吟独吟解説 (岩下神繁先生、横尾神? 先生：神風流・総元代範)

Handbook to the Poems by Mr. Iwashita & Mr. Yokoo



【乃木希典】(1849-1912) ■明治の陸軍大将。■嘉永二年江戸の長州藩邸に、毛利家家臣乃木希次の三男として生まれた。■慶応三年長州征伐のおり、高杉晋作の報国隊に加わり、幕軍と戦った。■西南戦争では連隊長として熊本で西郷軍と戦った。■明治三十四年休職し、農耕生活を送った。三十七年日露戦争で旅順総攻撃を指揮し、長男、次男を最前線に送り、どちらも戦死した。この時の戦死傷者は五万五千人。この時のことを、詩に「愧(はず)我何の顔(かんばせ)あつて父老に看えん」と心中を詠っている。■希典は大正元年九月十三日、明治天皇御大葬の日午後八時霊輿ご出発の号砲を合図に、静子夫人と共に殉死。六十四才。■辞世の句：“うつし世を 神さりましゝ大君のみあと慕ひて我は行くなり”

逸題

乃木希典

峻つよ富嶽聳千秋
赫灼くわく朝暉照八洲
休説きゆ區區風物美
地靈人傑是神州

逸題

峻つよたる富嶽千秋に聳え、
赫灼くわくたる朝暉八洲を照らす。
説とくを休やすめよ區區たる風物の美を。
地靈人傑是れ神州。

〈作意〉* 霊峰富士は、まことに気高く雄々しく、千年万年の昔から今も変わらぬ姿で聳えている。* この峰から昇る朝日はあかあかと国じゅうをくまなく照らしている。実に、この山は大日本国の象徴である。* あれこれと細かく、諸々の風景などを述べたてるとはならない。* 土地はあらたかで、傑出した人物に富む、これこそ、わが国が神国たるゆえんである。

〈背景〉明治45年1月、オーストリアの陸軍中佐テオドル・フォン・レルヒ(Theodor von Lerch)のもとに呼び書き与えたもの



で、のちにこの詩はドイツ語にも翻訳されています。このレルヒ中佐が、新潟県高田で日本にはじめてスキーを伝えた人です。

“No Title” by Maresuke Nogi

* The revered Mt. Fuji is dignified and gallant indeed. Since thousands or ten thousands years ago, rises the peak.

* The rising sun from it is brightly shining on all through this country. This mountain is quite a symbol indeed.

* We do never have to describe various views in one way or another.

* This land is covered with miraculous efficacy and outstanding figures appear one after another, which is why our country should be called Divine Land.

<Yoshy's Translation>

半夜

良寛

回首五十有餘年
人間是非一夢中
山房五月黄梅雨
半夜蕭蕭灑虚窗

Half - ya
半夜
首を回らせば五十有餘年、
人間のは非は一夢の中。
山房五月黄梅の雨、
半夜蕭蕭として虚窓に灑ぐ。



【良寛】・1758年(宝暦八年)~1831年(天保二年)。・万葉調で童心あふれる歌とおおらかな書で知られる幕末の禅僧だが、漢詩も好んで作った。・越後、出雲崎の名家の家で長男として生まれたが、22歳で感ずることあり出家。備中(岡山県西部)、玉島、円通寺の国仙和尚の下で修業を積み、諸国を巡歴した。47歳で国上山中の五合庵に定住。59歳、体力が衰えたため、山麓の乙子神社境内へ移住。更に69歳、島崎、木村元工門の屋敷内に移転した。享年73歳。(今なら90歳以上)

〈作意〉

* 振り返ってみると五十年余りの年月が過ぎて行った。* 世間の言う善とか悪とか、よしあしの全ては夢のようにはかなく思う。* 時は五月(旧暦)で、この山中、粗末な住居の真夜中、梅雨がしとしと音もなく、人気(ひとげ)のない窓に降り注いでいる。* 人生を考えるに、自分の誠をかざらずに天命を生きるべきではないだろうか。



“Midnight” by Ryokan

* Looking back, over fifty years have passed away.

* Every good and evil thing in this world seems to be frail and transient.

* In the midnight of May, I am listening the faint sound of rain alone... in this dilapidated hermitage.

* I happen to think of my life...I wish I could live obeying my fate, not wielding my tiny volition.

<Yoshy's Translation>



M-PEC 月例講座でも、この教案」：“Family Tree”を使いました。



新井小・英語授業 “Family Tree” with Ivan Brown先生 in Mr. Ito's Class

Dear Ladies and gentlemen at the 2010 MPEC Festival.

Today is a very special day for you to celebrate a wonderful combination of English drama and local Japanese culture. I would love to be there to share such a wonderful occasion with you.

English drama is an excellent way to experience English and to tell a story about your own hometown.

I remember doing drama lessons in my old school days. We also had to learn to express ourselves, and take on various roles and sympathize with various characters. Local community plays are also a popular tradition in England. They provide precious opportunities to strengthen the cohesion of a community.

I am thinking of you all today with a clear picture in my head, as I have experienced the warm and joyful atmosphere of an MPEC festival before. Please help Yoshy to continue his lively English activities!

I send you all my warmest wishes.

Ivan

<My self-introduction>

Hi, I'm Ivan Brown, specially appointed lecturer at Joetsu University of Education.

I'm nearly 38 years old and I come from England, in the U.K.

I've taught English at this university for 4.5 years, but I also taught English at schools on Izena Island, Okinawa for 3 years.

In between these two periods in Japan, I spent 6 years back in England, teaching music in schools and teaching English as a second language to immigrants from many different countries.

I like music, of course. I'm not very sporty, but I like gentle exercise, and occasional tennis, jogging, swimming and skiing, depending on the season. I love the mountains and their beautiful nature around Joetsu and Myoko.

2010.11.02の、<http://pub.ne.jp/MPEC/>に掲載中。

2010年度 M-PEC フェスティバルにご参加のみなさまへ

今日は皆さまにとって特別な一日です。英語劇と地域色のある日本文化の融合を紹介する日です。できれば皆さまと一緒に参加したくてなりません。

英語劇は英語を体験したり、皆さまご自身の古里についてのお話を語ったりする優れた方法です。

私のかつての学校時代での、演劇授業を思い出します。私達もまた、私たち自身を表現することを学ばなければなりませんでした。様々な配役を演じることで、色々な個性に共感しつつ表現したのです。英国の地域社会の演劇もまた、人気のある伝統を持っています。そのことによって、コミュニティの団結力を強化させてくれる貴重な機会を与えてくれます。

私は、以前のフェスティバルでの温かく喜々とした雰囲気を知っていますので、今日の皆さま全員のお顔が頭にくっきりと浮かんでまいります。どうか、ヨッシーのイキイキした英語活動が続きますように彼の手助けをしてあげてください！

私の心からの祈念を申し上げます。

アイヴァン

<自己紹介>

私、アイバン・ブラウンは、上越教育大学の特別任命講師です。

私は38歳近くで、英国、イングランド出身です。

私はこの大学で、4年半英語を教えてきていますが、沖縄の伊是名島の学校でも3年間教えていました。

日本でのこの間、英国で6年間音楽と、多くの国からの移民に第2外国語としての英語を教えていました。

もちろん、音楽が好きです。さほどスポーツ好きというわけではありませんが、季節に左右されますが、たまにはテニス、ジョギング、水泳そしてスキーが好きです。山が好きで、上越や妙高周辺の美しい自然が大好きです。

★「はね馬：台本：英和」は、割愛：www.shihoya.com ⇒「M-PEC」⇒「2010年度」に記載。

M-PEC 顧問からのメッセージ: Message from Advisors (着信順: Receiving Orders)

■ 香原ちさと先生 (M-PEC顧問) <香原先生のホームページは、www.shihoya.com とリンクしています>



2010.10.26の、<http://pub.ne.jp/MPEC/> に掲載中。

MPEC会員の皆様へ

先日の朝日新聞に、鳥飼久美子先生のインタビューが掲載されていました。その中で、鳥飼先生は、「コミュニケーションツールとして使われることを考えれば、英語が正しいかどうかを母国語者が選ぶ時代は過ぎました。発音でも文法でも、共通語としてどこを守ればいいのかを考える時代になりました。」とおっしゃっています。つまり、発音がネイティブのようでもなくとも、通じることに重点を置く方がよい、ということなのです。日本人の発音に通じにくいのは、発音がネイティブのようでないことを気にしすぎて、小さい声で、もごもご言うせいであることが多いのです。



せっかくの英語、使わなければもったいないですよ。ぜひ、日本語と同じくらいの大きさで、少し音を低めにしてみてください。そうすれば絶対に通じます。それができたら、文章にリズムとアクセントをつけましょう。日本語には強く読む語というのがないので、これが一番ネックになっているのですが、ちょっとオーバーかな、と思えるくらい強弱をつけるのが通じるポイントです。相手に伝えたい部分を大きく、ゆっくり目に、それ以外は弱く短く読む練習をしてみてください。みちがえるほど英語らしく、しかも通じる英語になるはず。試してみてくださいね。

香原ちさと

<Profile>

ソフィア教育研究所顧問。(Advisor of Sophia Teaching Laboratory)、ck-office代表。(President of ck-office) 『デジタル・ポップアップイングリッシュ』の改訂で歌やゲーム全般を担当。(Taking charge of songs, games in revising “Digital Pop-up English.”) 現在、東京農大・厚木校非常勤講師。執筆協力「歌でおぼえる小学生のフォニックス」「Grammaring 体験型英文法」(松香フォニックス研究所。)なお、毎月ソフィアのURLに「One Point 英会話クイズ」として、親子の英会話、ゲームのアイデア、英語クイズを執筆中。ぜひクリックを！<香原先生のホームページは、www.shihoya.com とリンクしています>

■ 橋口英俊先生 (M-PEC 特別顧問)



2010.11.03の、<http://pub.ne.jp/MPEC/> に掲載中。

第4回 M-PEC Festival おめでとうございます。いつもカラフルで温かい、しかも内容の濃い、遠藤さんのお人柄と愛情がみちあふれた LL Shihoya News とともに楽しみにしています。

1975年に、幼いお子さんから始まったLL シホヤ新井教室が、小学生から中学生、高校生へと成長し、今や成人対象の奉仕活動、M-PECへと拡がり、その成長ぶりには、ただただ驚くばかりです。遠藤さんの、常に世界を視野に入れた、発想の豊かさ、柔軟さ、大きさに敬服しています。ますますの充実とご発展、世界平和への貢献を心からお祈りしています。皆様によろしくお伝えください。橋口英俊

<Profile>

(Professor Hashiguchi Hidetoshi) … 東京家政大学名誉教授 (Tokyo Kasei University, Honorary Professor)・ル

ーテル学院大学臨床心理学専攻主任教授 (Japan Lutheran College, Head Professor), etc: 2008年度、退官 (Retired from them in the year of 2008.)・日本教育臨床研究所主宰 (IJEC: Institute of Japan Education and Clinical Psychology, Superintendent)・専攻(Majors):論理情報行動療法 (Rational Emotive Therapy)、臨床心理学 (Clinical Psychology)、東洋医学 (Oriental Medical Science)・・・etc.

【遠藤が東京経済大在籍中の恩師。LLシホヤ新井教室顧問。:Yoshy's one of the most respected teachers since Yoshy was in Tokyo Economic College and also Advisor of LL Shihoya Arai English School. 】

■ Ms. Roberta Rees (Yoshy's Friend & Teacher)



2010.10.26の、<http://pub.ne.jp/MPEC/> に掲載中。

I wish to offer my congratulations to each of the students for your preparation and hard work for the festival. I hope that each one of you will be encouraged by the improvement you have made during this past year in your ability to speak English.

The festival is a good opportunity for you to practice your English and gain more confidence in using what you have learned. I hope you will each continue to study hard, and continue to find more freedom in expressing yourselves in English.

Roberta Rees

I am a missionary, living in Miyota Machi, Nagano Ken, and working with the Miyota Grace Bible Church.

■ 風間直樹先生 (M-PEC 賛助会員)



2010.11.02の、<http://pub.ne.jp/MPEC/> に掲載中。

M-PEC Festival 2010 開催おめでとうございます。

現在私は、様々な国の方々と接する機会を多く持つ職に就いております。頭や心の中で抱いている思いを相手に伝えられる手段の一つとして、言葉があります。「英語は世界の人々と仲良くなれるための素晴らしい道具」このことを、幼少の頃通った遠藤先生の教室で、無意識に教えて頂いたように思います。私は、国籍の異なる多くの友人を得ました。皆と過ごす大切な時を、英語が結び付けてくれます。私にとってそうであるように、英語を通じて皆様がより心豊かな日々を送ることが出来ますよう、心から願っております。

参議院議員 風間 直樹

■ 関 脩(おさむ)先生 (M-PEC 顧問)



2010.10.30の、<http://pub.ne.jp/MPEC/> に掲載中。

同じ「旺文社LL教室」のもと、「生きた英語」を小・中・高生徒のみなさんに身につけて欲しいとの念願を抱き、御地「新潟」と当地「横浜」と離れながら、ともにその仕事に携わってまいった私でございますが、そのさなかから遠藤先生のご熱心で、かつ、斬新なご意欲には常に多大な敬意をはらっておりました。

かくして幾歳月、いつか私はその仕事から身を退くことになってしまいました。その忸怩たる想いは、そのまま遠藤先生に「ぜひ私でできなかったものを実現して頂きたい」との願いへと移り、ひそかに現役時代の敬意をお捧げしてまいりました。そして、頂くお便り毎にそれがまさに実現されていると知り、この上ない慶びを得ております。

私は過去、中・高校と私教室合わせての四十数年を、国語教師として勤めてまいりました。その間常に根底としておりました信念は「〈言の葉〉の持つ神通力」……紀貫之は古今和歌集の仮名序でそれを「力をも入れずし

て、天地を動かし、目に見えぬ鬼神をもあはれと思はせ、男女の仲をも和らげ」るものと説いておられますが……それを畏敬し、何とかして後生に伝えたいという想いでした。そして、遠藤先生はまさにこれと同じ思いを英語教育に実行しておられると知り、それが成就されんことを祈っていたのです。

ともすれば今日の英語教育は実用に役立つことを主目的にしているかに思われます。端的に申せば、外国に行ったとき、道を尋ねる時や、レストランでの注文、店での買い物などにはどう話しかけるか、などなど……。そのコミュニケーションの取り方も確かに大切ではあり、それを否定するものではありません。私はせつかく外国の言葉を学ぶのだったら、それを基礎とした上で、さらに深く、心と心を通わせ、微妙な感情、意味、色合い、声音などを知るよすがと極めるよう努めて欲しいと念じています。

こう申すと難しいと思われるでしょうが、遠藤先生の今日熱意を込めて実行されておられるのがまさにそれへの道筋だと私は信じているのです。すなわち、「民話」などを始めとし、いろいろな「劇」を外国語で演じることにより、それぞれの国人の「言葉」の持つ「真の力」を知り、結果として他の国の文化をより深く理解することへも通じ、広い視野を備えた人に育つと信ずるからなのです。

長々と申し述べましたが、現在その実行に努めておられる遠藤先生のご努力が、きっと実を結ぶに違いないと信じ、ご健康にはあくまでもご留意なされ、お努め下さるよう念じます。合わせて共に学ぶ皆様もまた進まれる先に佳き道の開かれるよう心からのお祈りをいたしております。

関 脩 拜

<Profile>

1932年 東京芝区(現港区)に生まれる。國學院大學文学部卒。國學院高校、聖光学院中・高校教諭を経て、1975-2000年、横浜で「アカデミア港南台(旺文社LL英語・数学教室)」を経営。その傍ら、国語教育に従事。現在も文筆活動、史跡探索案内などを通じ、日本伝統文化に基づく「美しい国語」の再興に専念。1975年【Fm-fan】誌の懸賞作文に特賞、ヨーロッパ音楽旅行に招待。1976年【神奈川新聞】の懸賞小説に『ザルツブルグの霧』で入選。著作：「かたみのバラード」(1994・近代文芸社)、「連翹映えて」(2002・文芸社)。日本ペンクラブ(N)会員。

■ 早津賢二先生 (Yoshy's Friend & Teacher)



「妙高火山群」(実業公報者)紹介記事:2010.10.7の、<http://pub.ne.jp/MPEC/>

に掲載中。<2010.10.5 16:03:26 sent by email>

「はね馬」の雪形がいつ頃から見えるようになったのか教えるとは、難しい注文ですね。はね馬が見えるようになるには、(1)はね馬の崖をつくっている溶岩が噴出し、(2)神奈山の北斜面に大きな沢が刻まれ、(3)はね馬の部分が崩壊する、という3つの事件が関係しています。

(1)の溶岩は二代目の妙高(妙高は四つの世代からなっています)に属する幕ノ沢溶岩層で、今から10万年ほど前に噴出しました。(2)の沢は片貝川支流の馬形沢(片貝川D沢)で、数万年前にはほとんど今の形になっていたでしょう。問題は(3)のはね馬の形を決定した崖崩れの時期です。今のところ時代を決定する確証はありませんが、地形から判断して、数千年以内ではないかと推定されます。おそらく千年のオーダーでしょう。そうだとすると、私たちの祖先である縄文人も同じような形をしたはね馬を見ていたかもしれませんね。あまりお役に立てずすみません。



<Profile> (「妙高火山群・多世代火山のライフヒストリー」<実業公報社>より)

1944年新潟県に生まれる。信州大学・京都大学大学院修了。富山大学・群馬大学講師を経て、現在フリーの立場で研

究に従事。妙高火山研究所主宰。専攻は地質学。理学博士。〈著書〉:「妙高火山群—その地質と活動史-」(第一法規出版)「妙香は噴火するか」(新潟日報事業社)「燃える焼山」(新潟日報事業社)「日本の火山をたずねて-関東・甲信越編-」(築地書館)など。〈住所〉:944-0035 妙高市渋江町4-10 Tel:0255-72-0286

★★★★★ 入村 明市長様、増井準治先生、西脇守夫先生(顧問)始め、ここに記載しきれない多くの先生や支えて下さっておられる会員、関係者の皆様にお礼申し上げます。<I greatly appreciate Members, relevant parties and Yoshy's teachers or friends who have been supporting M-PEC and I am sorry I can not print their names : Mayor, Akira Nyumura, Mr. Junji Masui, Mr. Morio Nishiwaki (Advisors), etc.> ★★★★★



M-PEC
Motto of M-PEC

♪ 使える英語学習を楽しもう

Enjoy Learning Practical English



★ 英語で仲間づくりをしよう

Develop Friendship by Using English

✦ 英語で伝統文化を紹介しよう

Introduce Our Traditional Culture in English

目的・講座・年会費

★妙高市内外在住の外国人と友好を深めるために、使える英語学習を楽しみながら、妙高市に伝わる伝統文化を紹介して行くことです。

★毎月一回、YEA: "Yoshy's English Activity" (第2土曜日、7:00-8:30 pm at LLシホヤ新井教室)
ゲーム中心の、日常英会話の基礎学習を楽しめます! 資料代として毎回¥1,000徴収 (英語が母国語の会員は無料)

★年会費: ¥3,000

★詳細は保坂 太(会長)までお尋ねください。

電話: 090-5419-7199

Mail to foshim10@yahoo.co.jp

★募集要項: www.shihoya.com ⇒ 「M-PEC」ご参照

Purpose & Monthly School

* We shall introduce the traditional culture of Myoko City to non-Japanese residents of Myoko City and the others and develop friendship with them while at the same time enjoying learning practical English.

* "Yoshy's English Activity": training Basic English Communication is held once a month, from 7:00-8:30 pm on the second Saturday at "LL Shihoya Arai School" The members whose mother tongue is English need not pay the material fee. (The other ones pay ¥1,000 in every Yoshy's English Activity.)
Membership fees are ¥3,000 a year.

★Ask Futoshi Hosaka for details.

Phone: 090-5419-7199

Mail to foshim10@yahoo.co.jp

2010年度賛助会員ご芳名<Supporting Members> :

ご支援有難うございます。Thank you very much.

(50音順) 小栗康雄様 Mr. Yasuo Oguri (新井有線放送協会 an announcer of AUK)、風間直樹様 Mr. Naoki Kazama (参議院議員a member of the House of Councilors)

■賛助会員募集中Recruiting Supporting Members : 年間1口(¥10,000) ¥10,000 lump sums through one year.

特典Privileges : *年会費免除Free Yearly Fee *毎月の講座受講料無料Free M-PEC Monthly Lesson Fee *Festival入場料無料Admission fee to M-PEC Festival is free.

M-PEC役員<Current Officials of M-PEC> :

遠藤由明(代表) Yoshiaki Endo ("Yoshy" President)、
保坂 太(運営委員会会長) Futoshi Hosaka (Chairperson of the Steering Committee) 、
川村美千子(会計) Michiko Kawamura (Treasurer)

